キャラクター名
染霧 怜(そめぎり れい)

プレイヤー名

シンドローム	バロール ウロボロス	ワークス	入院患者	カヴァー	ヤクザの若頭(服役中)
オプショナル		年齢	17歳	性別	男
覚醒	狂気	衝動	妄想	初期侵食率	35 %
出自	待ち望まれた子	経験	死者蘇生	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1		0			1
感覚	2		0			2
精神	4	1	2		4	11
社会	1		0			1

HP	28
行動値	15
(非装備時)	15
戦闘移動	20
全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	7		射撃			ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志	2	1	調達		
運転：			芸術：			知識：<知識：クトゥルフ神話>	4		情報：<情報：噂話>	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
無形の爪牙	白兵	1r+7	1	3		
【やがて絡てが影に溶ける(ディフェクト・オリジン)】	白兵	11r+7	1	14		装甲無視。侵食上昇：12
	白兵	11r+7	1	18		100%↑

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
[永続狂気：身体表現性障害]	
[思い出の一品]	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
実験体(ロストナンバー)	P	N		
弟：染霧 塁	P 執着	N 偏愛		
魔術師：	P 執着	N 悔悟		
“偽神の心臓”	P 執着	N 敵愾心		
円道寺撫子	P 親近感	N 恐怖		
赤羽紅理主	P 有為	N 隔意		
黒の司祭	P 懐旧	N 憎悪		

最大財産P: 2	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
《コンセントレイト：ウロボロス》	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果： 組み合わせた判定のC値-Lv(下限値7)								
《無形の影》	★	4	メジャー	-	-	【精神】	1/R	
効果： 組み合わせた判定を【精神】で行える。								
《シャドースクラッチ》	5	2	メジャー	-	-	<白兵>	-	
効果： 組み合わせた攻撃力+Lv、《無形の影》と組み合わせ時、攻撃力+[Lv×2]になる。								
《シャドーテンタクルス》	★	1	メジャー	視界	-	<白兵>	-	
効果： 組み合わせた攻撃を「射程：10m」に変更する。《無形の影》を組み合わせた攻撃は「射程：視界」となる。								
《漆黒の拳》	1	3	メジャー	-	単体	<白兵>	-	
効果： 組み合わせた攻撃の攻撃力+Lv、装甲無視								
《無形の爪牙》	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 素手データ変更。								
《時の棺》	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果： 自動成功以外の判定を失敗させる。								
《ディメンジョンゲート》	1	3	メジャー	至近	効果	自動		
効果： 空間転移。								
《イージーフェイカー：惨劇の隠蔽》	1	2	メジャー	視界	効果	自動	-	
効果： 痕跡を消滅させる。規模が大きい場合はGMとの要相談。浸蝕基本値+1。								
《傍らの影法師》	1	-	メジャー	至近	自身	効果	-	
効果 :自身の影を立体化させて付き従わせる。外見は自由に設定できるが会話は出来ない。見破る場合は観察者の<知覚>と自身の<RC>で対決。								
効果：								
効果：								
効果：								

■設定■
医療少年院に無期限入院中の患者兼囚人。立場上はK市をシマに持つヤクザの若頭。
普段は面会に乗じて指示を行ったり、ディメンジョンゲートで勝手に出歩いたりしているので一応組織の仕事はしていると言えるが、若頭の地位はどちらかというと怜を繋ぎ止めておくための上下に対する示しに近い。

かつてはとある神職の家系の末裔であったが、双子を尊ぶ風習に祭り上げられ弟の塁と共に恵まれた環境で育つ。
だが、その日々も15歳――昔で言う元服の際に終わりを告げた。
弟・塁の突然の事故死。そして、自身の一族が祀る生命自在の神“ウボ＝サスラ”の存在。
怜は弟の蘇生を願い、“ウボ＝サスラ”の存在を嗅ぎまわる魔術師の口車に乗せられるままに儀式場の鍵を開けた。――開けてしまった。
そこから飛び出して来たものの記憶はない。
ただ事実としてあるのは、一族本殿を起点に一族が集まっていた居住域の生命が溶け落ちて、ただひとり、弟に似た影を傍に立たせた怜がいるだけだ。
不思議なことに、町の住人の何割かが一度に消息不明になる大惨事と言ってもいい状況は何処にも洩れる事はなく、途方に暮れた怜の下へと最初に駆け付けたのは、オーヴァード戦力を欲したヤクザ組織・鴻央会の系列組織だった。
引き取られるまま、ヤクザとして育てられる中、怜の足元には常に揺らいだ影が佇んでいる。
弟はまだそこにいるのだ。代わりに生き残ってしまった自身を弟の影が許さないと告げる様に、そこにいるのだ。

だから、だから。……だから。

怜は精神的に病んだ未成年犯罪者が収容される、医療少年院へと押し込まれた。
鴻央会系列組織ですら手綱を握り続ける事を危険視する故に。しかし、手放しで放り出すには惜しい逸材として。
必要とあれば敷地の壁など、世間の戯言など、影の様に揺らいで消える幻のように振舞う狂人をどうにかして利用しようとする為に。